

生き抜く力を育む「学級・学習集団づくり」

学級・学習集団づくりがうまくいかなければ、どんなに学習指導を工夫しても、学力向上に効果的につながっていきません。そこで、「子ども」「教師」「学校」の3つの視点からよりよい「学級・学習集団づくり」について考えてみましょう。

子どもに育みたいこと

- 「聴く」「話す」ことができる学習態度
- 相手を尊重し、自分を律することのできる態度
- 集団の一員として目標をもって取り組み、困難を乗り越える態度
- 集団として高い理想をもった自主的・自立的な行動

「ならぬことはならぬものです」

相手のことを思いやっ
て聴いたり話したりする
ことができますか？

集団の一員として、
時には我慢することが
できていますか？

切磋琢磨する集団
になっていますか？

学級の子どもは育っていますか？

集団を形成するために大切なことは、まず、「聴く」態度です。多様な意見や価値観を認めて真剣に聴く態度、たとえ間違えてしまっても笑わない態度。そこには相手を尊重する心があります。

そして、熱心に聴いてくれるから、考えを伝えようと相手意識をもって一生懸命話す態度が育ちます。

お互いに相手を意識し、尊重するところから子ども同士の関わりが生まれます。時には、合意形成を図るために折り合いをつけようと自分を抑えることも必要になることがあります。そして、集団としてまとまり、困難を乗り越えていくようになります。

このようにして育った集団は、目標実現のために自主的に行動のとれる集団になっていくでしょう。

教師（担任）が こころがけたいこと

- 互いを尊重し合い、認め合う支持的風土の醸成
- 自主性・自立性を育む教育活動の展開
- 一人一人の特性を踏まえ、個を大切に
する学級経営
- 是是非非について褒める叱ることのできる
姿勢

「教師の笑顔が子どもの笑顔に」

子ども一人一人に声を
かけるように努めていますか？

やるべきことは最
後までやらせていま
すか？

指導にぶれが生じな
いように、基準を明確
にもっていますか？

今こそ、教師の姿勢が問われます！

「当たり前のことを当たり前でできる」「やらなければならないことをやる」ということを徹底させていますか。

子どもは、教師の姿勢に感化されます。教師が何を絶対に許さないのか、何を褒めるのか、明確な根拠の下に一貫した指導を行うことがとても重要です。そうした姿勢が集団に秩序を与え、集団の一員としての役割を果たそうとする態度を育てます。

そして、自ら考え、判断し、行動できる自主性・自立性の育った集団となるように、発達段階に合わせて、意図的・継続的に指導することが求められます。

学校に求められること

- 学年、学校全体で教師（担任）を支える体制
- 学校、学年で共通理解し、共通実践できる体制
- 同僚性を発揮し、教師の指導力を向上させる環境
- 学校全体で、子どもと関わる時間を確保できる環境整備

「判断基準は、
『子どもにとってどうなのか』」

集団育成の成否は
年度当初の指導によ
る!!

そのためにも、学
校・学年での共通理
解、共通実践を!

子どもたちに、よりよい
集団を求めるには、まず教
師集団がその手本を!

集団づくりが、担任まかせになっていませんか？

学校の組織として、どのように対応するかも重要な視点です。

例えば、学級経営案に、学校、学年の意向が反映されているでしょうか。何か問題が起こってからではなく、計画の段階から組織的に関わる体制づくりが大切です。

また、お互いの学級経営に対して、よい意味で意見が出し合える雰囲気も必要です。閉ざされた学級にすることなく、開かれた学級であることが重要です。

教師が子どもと向き合う時間を日課表の中に位置付けるなど、学校全体として「学級・学習集団づくり」のための環境を整備することも必要です。

よりよい「学級・学習集団づくり」は、「確かな学力の向上」につながるだけでなく、「豊かな人間性・社会性の育成」や「健やかな体の育成」のための土台として、なくてはならない大切な視点です。そして、やがて独り立ちする子どもたちに生き抜く力を育みます。